

「今一番欲しいモノは何？」

「朝は何を食べたの？」
7月下旬、パキスタン北西部のアフガン難民が暮らす村。土砂降りの雨の中、子どもたちに語りかけた。

「クリケットで遊ぶ場所」
「私は卵を食べた」。明るい声に目を細める。

98年から国連開発計画(UNDP)親善大使。英語も海外旅行も苦手だった



UNDP親善大使として10カ国・地域を訪問

紺野 美沙子さん(49)

が、「自分で役に立つのなら」と引き受けた。これまでカンボジア、パレスチナ、東ティモールなどを訪問。紛争、地雷、エイズ、人身売買など過酷な現実を生きる人々の声に耳を傾けてきた。今回のパキスタンは10カ国・地域目。

帰国後の講演会などで訪問国の現状を伝える一方、07年にはクイズ番組の獲得賞金1000万円を東ティモールの植林活動に寄付。10年間の活動をまとめた著書「ラララ親善大使」(小学館)を08年出版した。

今回の視察では約7万5000人が犠牲になったパキスタン地震の被災地にも足を運んだ。今も消えない遺族の悲しみに接し、「肝心の心のケアが遅れている」と感じた。

「こんな私が親善大使でいいの?」と感じるたび、旅先での出会いに助けられてきた。「これからも一つ一つの出会いを大切に、自然体で続けていきたい」

帰国後、パキスタンで大規模な洪水が発生した。洪水、心配です」。紺野さんからのメールに、子どもたちの笑顔と、無事を祈る紺野さんの姿が浮かんだ。

文と写真・佐藤賢二郎



慶応大文学部卒。80年にNHK連続テレビ小説「虹を織る」主演。今秋、舞台「忠臣蔵」に出演する。著作7冊。